

民生教育委員会行政視察報告書

1 視察期間

平成30年4月17日 1日間

2 視察都市

(1) 静岡県浜松市

3 参加者

草地博昭委員長、虫生時彦副委員長、秋山勝則委員、小栗宏之委員

戸塚邦彦委員、小柳貴臣委員、芥川栄人委員、高梨俊弘委員、増田暢之議長

随員 河野順一副主任

4 視察事項

(1) 市の概況について

(2) 子ども・若者育成支援について

5 考察

次のとおり

I 浜松市 人口：804,989人・面積：1,558.06㎢（平成30年4月1日現在）

1 子ども・若者育成支援について

(1) 概要

浜松市は、ひきこもり対策推進事業として、平成21年7月に「浜松市ひきこもり地域支援センター」を開設した。平成26年4月に浜松市若者コミュニティプラザとして移転し、精神保健福祉センターが、ひきこもり相談の第一次相談窓口として、主に家族相談などを行い、ひきこもり支援に実績のあるNPO法人遠州精神保健福祉をすすめる市民の会（E-JAN）が、「ひきこもりサポートセンターこだま」として、ひきこもり当事者の訪問支援及び居場所事業などを行い、官民協働で運営をしている。

具体的な精神保健福祉センターの役割としては、インテーク相談、家族カウンセリング、家族教室、支援研修会、ひきこもり支援ネットワーク会議などであり、NPO法人遠州精神保健福祉をすすめる市民の会（E-JAN）の役割としては、訪問相談、コミュニティスペース事業、訪問ケース家族交流会、普及啓発活動、企画検討委員会の開催などである。

また、15歳から39歳までの無業の若者（学生を除く）を対象とする就職に向けてさまざまな支援を行う「地域若者サポートステーションはままつ」を同じフロア内に設置している。「ひきこもりサポートセンターこだま」と同様、NPO法人遠州精神保健福祉をすすめる市民の会（E-JAN）が運営を委託している。サポート内容は、職場見学、ソーシャルスキルトレーニング、学び直し、心理相談などのほか、高校中退者へのアウトリーチ支援などである。学校教育からの切れ目ない支援のためにハローワークなどの就労支援機関をはじめ、保健、医療、福祉、教育、他のNPO等と連携をとり、さまざまな取り組みを行っている。

(2) 考察

なぜこの視察先を選んだかといえは、「サポステはままつ」を磐田市民の就労に悩む若者たちが使用しているということ、そして浜松市が独自で開設している「浜松市ひきこもり地域支援センター」をその若者たちも利用しているという声を聴いたからである。

磐田市の就労に悩む若者たちは、この「サポステはままつ」そして遠州地域にある「サポステかけがわ」を利用するか、ハローワークで相談をする選択肢しかない。そして「ひ

きこもり」について相談しようとした場合には、「西部保健センター」内で実施されている、月に2回、それぞれ2回ずつある個別相談を利用するしかない。

今回の視察では、今の磐田市における、就労やひきこもりに悩む若者たちの現状を確認することができたこと、それから就労およびひきこもり支援に対する仕組みづくりについても、政策づくりのヒントを得られた。

本市で若者支援を展開するにあたっては、この「浜松市ひきこもり地域支援センター」および「サポステはままつ」と連携をすることは必要不可欠であるため、今後も動向を注視したい。